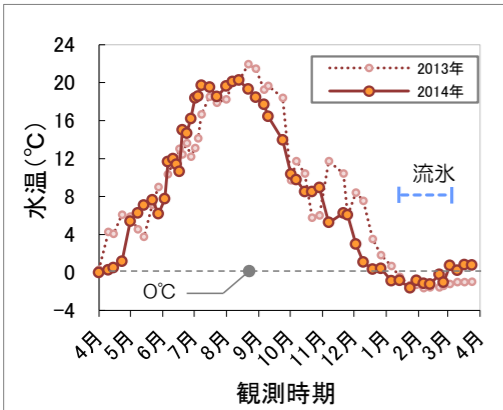


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2015年3月-①)

海洋環境データ

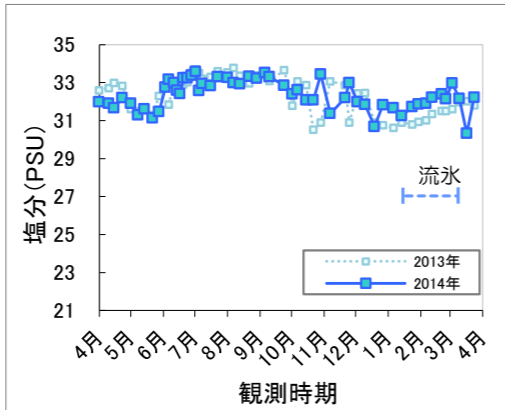
※観測：紋別市

◎水温 (0~9mまでの平均値)



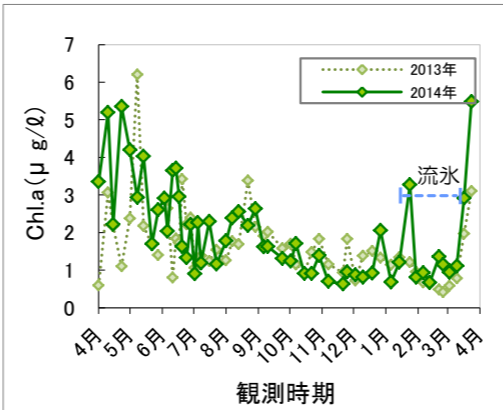
※1月15日：流水初日、3月10日：海明け、3月15日：流水終日 発表

◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※1月15日：流水初日、3月10日：海明け、3月15日：流水終日 発表

◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

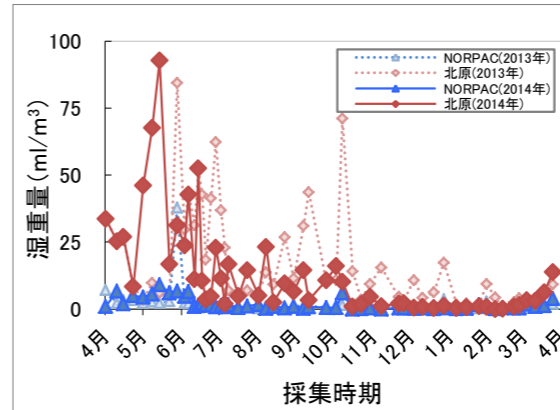


※1月15日：流水初日、3月10日：海明け、3月15日：流水終日 発表

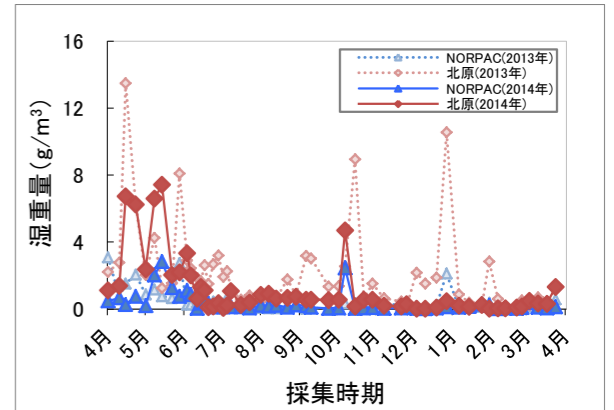
動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



◎動物プランクトン・湿重量



概要

	3月3日	3月9日	3月12日
平均水温 (°C)	-0.2	-1.0	0.7
平均塩分 (PSU)	32.4	32.1	33.0
平均Chl.a (µg/l)	1.4	1.2	0.9
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 0.3 (北原式定量ネット) 1.0	(NORPACネット) 0.4 (北原式定量ネット) 1.5	(NORPACネット) 1.8 (北原式定量ネット) 3.4
湿重量 (g/m³)	(NORPACネット) 0.0 (北原式定量ネット) 0.1	(NORPACネット) 0.1 (北原式定量ネット) 0.1	(NORPACネット) 0.4 (北原式定量ネット) 0.5
主な出現種	(NORPACネット) ○Neocalanus flemingeri [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Pseudocalanus minutus [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] (北原式定量ネット) ○Pseudocalanus minutus [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Acartia hudsonica [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ◎Oithona similis [++] (カイアシ類の1種) ◎Copepoda (nauplius) [++++] (カイアシ類のノープリウス幼生)	(NORPACネット) ○Calanus glacialis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Neocalanus flemingeri [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Pseudocalanus minutus [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] (北原式定量ネット) ○Calanus glacialis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Eurytemora herdmanni [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ◎Copepoda (nauplius) [+++] (カイアシ類のノープリウス幼生)	(NORPACネット) ○Mesocalanus tenuicornis [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ○Paracalanus parvus s.l. [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Eurytemora herdmanni [++++] (カイアシ類1種) [冷水性/汽水性] (北原式定量ネット) ◎Pseudocalanus newmani [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Eurytemora herdmanni [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Copepoda (nauplius) [++++] (カイアシ類のノープリウス幼生)
備考	—	—	○ (NORPACネット) 腐植質多い ○ (北原式定量ネット) 腐植質多い

出現量の多かった種類

●Pseudocalanus newmani (カイアシ類の1種)
体長：2.0-1.5mm、φ0.9-1.2mm。冷水域に極めて普通に出現し、分布は前述のPseudocalanus minutusとほぼ同じ。東北以北の沿岸では冬季顕著なカイアシ類の1種となる。

●Eurytemora herdmanni (カイアシ類の1種)
体長：2.1-1.4mm、φ1.1-1.2mm。主に北半球高緯度地方に分布し、日本では北海道東部の汽水域や沿岸部、青森・三浦等で知られる。雌のみ体の後面の形が異様に左右非対称に突出するが特徴。

●Acartia longiremis (カイアシ類の1種)
体長：2.0-1.4mm、φ0.9-1.2mm。冷水性。世界各地の冷水域沿岸に出現する。日本では主に東北から北海道沿岸に分布する。

●Oithona similis (カイアシ類の1種)
体長：2.0-1.0mm。各地の内海・沿岸・外洋で普通に出現。日本各地の沿岸にみられる代表的な種類。各大洋に広く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。

●沈殿量測定状況 (NORPACネット)
沈殿管で静沈させた動物プランクトンサンプル。左から3/3、3/9、3/12、3/18、3/23、3/31に採集されたもの。3/18以降のサンプルは植物プランクトンが多く、緑色をしている。

●沈殿量測定状況 (北原式定量ネット)
沈殿管で静沈させた動物プランクトンサンプル。左から3/3、3/9、3/12、3/18、3/23、3/31に採集されたもの。3/18以降のサンプルは植物プランクトンが多く、緑色をしている。

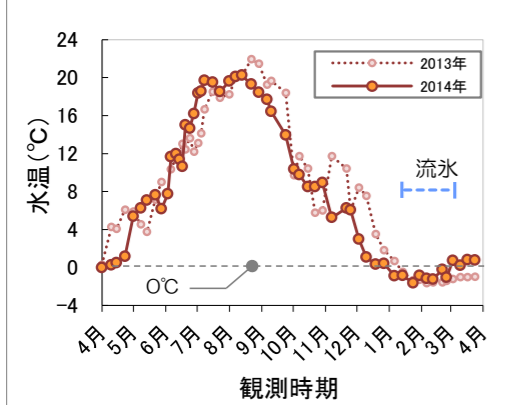
※種名の先頭に"◎"がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の" + "は分析者主観による個体数の多さを示す ([+]出現、[+]やや多い、[+]多い、[+]かなり多い、[+]極めて多い)。
 ※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す (◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。
 ※今月のサンプルには珪藻類 (植物プランクトンの仲間)、腐植質 (主に枯死・分解した植物由来の物質) が多く含まれており、沈殿量および湿重量には植物プランクトンの重量も含まれている。
 ※湿重量欄の"0.0"は四捨五入の都合上、"0.1 (g)" 未満になったことを示す。
 ※参考文献：①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説 [東海大学出版会] / ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑 [保育社] / ③岩国市立微生物館 監修 (2011) 日本の海洋プランクトン図鑑 [共立出版]
 ④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods. 8: The *Danielssenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I., Hopcroft, R. R., 2006. Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.
 ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門 [恒星社厚生館] / ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima, 2005. A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.
 ⑧西・加藤 (2002) 日本産カムムリゴカイ科多毛類の分類について. *タクサ第13号*, 5-17. / ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類 [生物研究社] / ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) すかん プランクトン [技術評論社] / ⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち [北海道新聞社]

◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2015年3月-②)

海洋環境データ

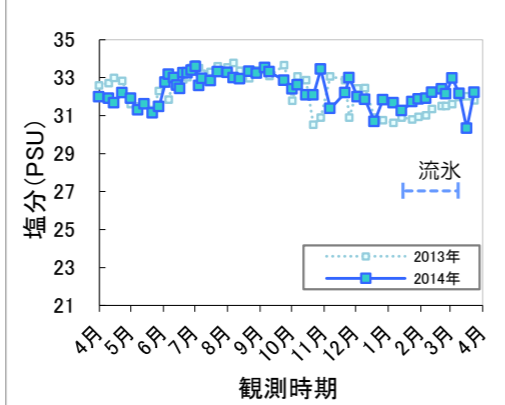
※観測：紋別市

◎水温 (0~9mまでの平均値)



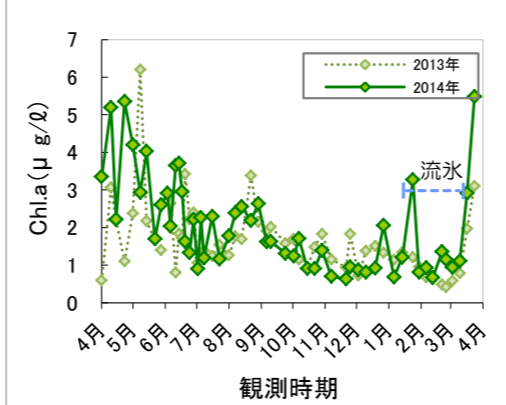
※1月15日：流水初日、3月10日：海明け、3月15日：流水終日 発表

◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※1月15日：流水初日、3月10日：海明け、3月15日：流水終日 発表

◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

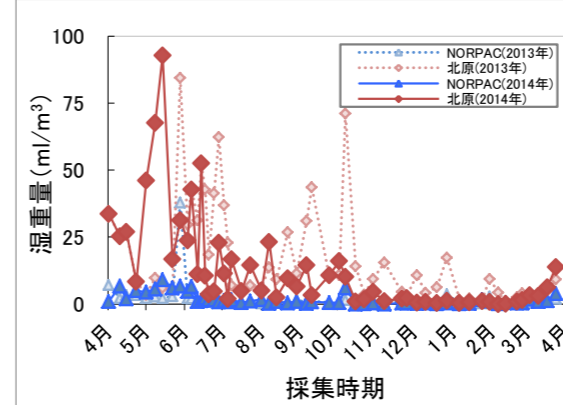


※1月15日：流水初日、3月10日：海明け、3月15日：流水終日 発表

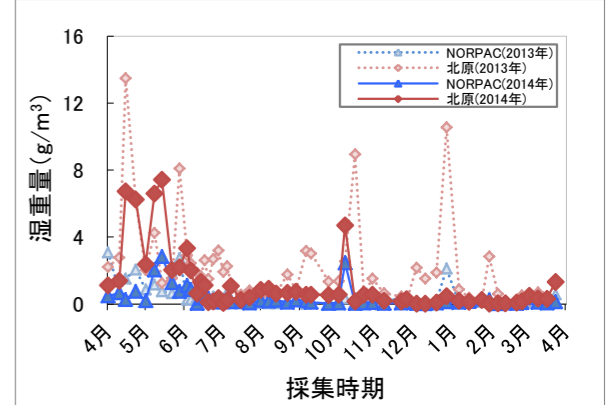
動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



◎動物プランクトン・湿重量



概要

Table with 3 columns for dates: 3月18日, 3月23日, 3月31日. Rows include: 平均水温 (°C), 平均塩分 (PSU), 平均Chl.a (µg/l), 沈殿量 (ml/m³), 湿重量 (g/m³), 主な出現種 (listing species like Calanus glacialis, Eurytemora herdmanni, etc.), and 備考 (notes on sampling methods).

出現量の多かった種類

Microscopic images of Copepoda (nauplius) and Balanomorpha (nauplius). Includes text descriptions for Thysanoessa inermis (egg/nauplius) and Theragra chalcogramma (larva).

※ Thysanoessa inermis および Theragra chalcogramma (スケトウダラ) の出現量は少なかったが、参考として記載した。

※種名の先頭に"◎"がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[...]内の"±"は分析者主観による個体数の多さを示す(±出現、++やや多い、+++多い、++++かなり多い、+++++極めて多い)。
※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。
※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量および湿重量には植物プランクトンの重量も含まれている。
※参考文献：①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③岩国市立微生物学館 監修(2011)日本の海洋プランクトン図鑑[共立出版]
④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods, 8: The Danielssenia sibirica group, with description of D. stefanssoni Willey from Alaska. Pac. Sci. 20 (4), 435-444.
⑤Pinchuk, A. I., Hopcroft, R. R., 2006. Egg production and early development of Thysanoessa inermis and Euphausia pacifica (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. J. Exp. Mar. Biol. Ecol. 332, 206-215.
⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門[恒星社厚生閣]⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima, 2005. A new species of the calanoid copepod genus Centropages (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? Plankton Biol. Ecol. 52 (2), 92-99.
⑧西・加藤(2002)日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について, タクサ第13号, 5-17. ⑨今島(1996)環形動物 多毛類[生物研究社]⑩日本プランクトン学会 監修(2011)ずかん プランクトン[技術評論社]⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]